

文芸コーナー

薬湯のひとつわがき今朝の秋
一瞬を一筋として滝墜ちる
しんがりを走る園長天高し
短冊の墨淡くして後の月
百目柿熟れて明るき門の内

俳句

大雨に濁流となりし利根川の河口に向ふ流木速し
次々に広がりみする台風の大き災害はひとごとならず
老杉に注連縄張りたる光堂氏は所縁の民話を語る
豊敷きの大広間のごと見ゆる田はこがね色あり薄みどりあり
阿吽のごと天狗の像は最乗寺門前に建ちわれをにらめる

短歌

加藤恵美子選

木下 服部 富枝
大森 安孫子正子
若萩 堀江 二雄
高花 田中 兵作
大森 三ツ木絹江

田口 三石選

木下 小坂 照子
大森 島田 松子
内野 宮内 栄子
木下 佃 正男
大森 滝沢 節子

<短歌・俳句をお寄せください>

一人一首または一句で未発表のもの。毎月 20 日締め切り(必着)です。投稿は、郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を明記の上、広報広聴課広報広聴班まで。

伝えていく地域の心
竹袋稻荷神社の例大祭



広報レポーター: 渡邊 信一 (若萩)

10月11日、竹袋交差点の南に鎮座する竹袋稻荷神社の例大祭が行われました。この祭礼は秋の収穫が終わり、豊作に感謝するため毎年10月16日から18日に催されています。当日は当番総代の山口道博さんと氏子の杉本昭夫さんにお話を伺いました。竹袋稻荷神社は飛鳥時代の創建といわれ、京都伏見稻荷神社の勧請による分霊社です。祭神は蒼稻魂命で、一切の食物をつかさどりませす。特に穀物の生産や豊穰を守る神様で、1,300年以上も木下地区の人々に信仰されて



深い森のなか、本殿の鮮やかな朱の色が目映えます

きました。神社縁起によると「木下」という地名は、永徳年間(1383年)に隣国里見家から稻荷神社再建の用材を寄進され、その用材が利根川の木下河岸に下ろされた故事に由来するとあります。神社の氏子は木下地区の竹袋、上町、幸町、仲町の四組からなっています。例大祭は神社の拝殿で総代や氏子が集まり、10時から神主のお祓い神事が始まりまし



出番を待つ小学生。指先までしなやかに舞いました

た。神事が厳かに進められる中、拝殿前では小学生が4人、緊張した面持ちで中を覗き込んでいます。聞くところ木下囃子保存会に所属する地元の小学生で、この後奉納のため拝殿で神楽を舞うとのこと。毎週、保存会メンバーで練習しているそうです。お祓い神事が終わると木下囃子保存会による奉納舞が始まりました。軽快なり



翁の前で白狐が躍動的に舞う

ズムのお囃子は神田囃子の流れをくむそうです。お囃子にあわせた翁と白狐の舞そして子どもたちのひよつとこの舞へと続きます。今も伝統を守り続ける地域のみなさんのお囃子と舞が見事でした。小学生のうちから神楽を始めることについて杉本さんに聞くと「中学生になると忙しさから神楽を離れて



細かな装飾が特徴の神輿

しまう。将来、神楽に関わる時には昔習った勘が役に立つ。そうやって伝えている」と話されました。竹袋神社の例大祭は、利根川の木下河岸問屋前に御仮殿を建て、神輿が二泊泊まりの渡御を行う「お浜下り」が行われることで知られています。今年はお祭りの奉納となりまして、お浜下りでは木下のまちを神輿が練り歩き、3町内から3台の山車も練り出して大変賑わうので、ぜひ見てみたいと思います。

施設がいと

いんば学舎
オソロク倶楽部



広報レポーター
吉川 映子(高花)

秋晴れの爽やかな一日、いんば学舎・オソロク倶楽部にお邪魔しました。「すべての人が共に在る生活創りをめざして」を理念とする社会福祉法人印旛福祉会の施設です。



施設長の佐藤さん(右)。とても温かみのある人です

総武カントリーの近く、草深い豊かな自然に囲まれた場所にある施設で、平成19年5月、障がいのある人の就労支援のために開設されました。現在、40人のメンバー(利用者)が農作業を学んだり、パン工房やピザレストランで製造や接客、アート制作を行ったりしています。施設長の佐藤さんに案内していただきました。パン工房では焼きたてのパンの香りが包む中「いらっ



焼きたてパンが並ぶ。午後には売り切れることもある

しゃいませ」とメンバーの元気な声とんできました。石窯で焼くパンは約30種類あり季節ごとに変えるそうです。店内の飾りは全てメンバーが考えるそうで、彼らの自主性に任せアドバイスは最小限にしているということでした。ピザレストランでは、黒いエプロンを巻いたメンバーが接客にあたっています。注文をとる際に少し時間のかかる場合もありますが、そこは温かく見守ってほしいとのこと。



「いらっしゃいませ！」慣れた手つきで接客をこなします

このレストランにはウッドデッキがあり、森を見ながら焼きたてピザをいただくという、せいたく時間をお過ごしことができます。最後に佐藤さんは「自然と緑のある中で、地域の人たちと触れ合いながら仲良くやっていきたい。障がいがあるために声をあげたり戸惑ったりするけれど、みなさんの中に入ってくれたら」と願っていました。



大きな窓から森が見える「森のアトリエ」でカード制作に専念

今は障がいがあってもみなさん積極的に外へ出ています。私も、少しのお手伝いで助かる人がいるなら手を差し伸べたいと思います。例えば買いたい物がある時「お金が足りなかったらどうしよう」それが心配でいつも大きなお札を出しておつりをもらうようにしているというお話伺いました。ちょっとしたお手伝いでお買い物ができるようになればうれしいと強く感じた一日でした。

リサイクル情報広場

掲載情報は10月27日現在
■クリーン推進課クリーン推進班(☎内線 383)

◆ゆずりませ情報

- ①犬の洋服②スキー板・ストック・スキー靴③ガラスケース入りわらべ人形④五月人形

◆さがしています情報

- ①補聴器②木刈小学校体操服上下③しおん幼稚園女子制服④鋳物製の羽釜⑤スピードラーニング初級(16巻)テキスト付⑥布佐台幼稚園男子夏制服⑦ソファ⑧ローテーブル⑨ダイニングテーブルセット

※詳しくは市ホームページをご覧ください。

毎月5日は「ノーレジ袋デー」です。
お買い物にはマイバッグを持参しましょう。

